



若松小だより

令和7年度 1月号 No.11

令和8年1月8日

府中市立若松小学校

校長 生井 信太郎

自ら考える子 思いやりのある子 たくましい子

夢を語る～「サーモン計画」～

校長 ^{なま}生井 信太郎

新年明けましておめでとうございます。令和8年、2026年が皆様にとって、そして子供たちにとって素晴らしい年になることを心よりご祈念申し上げます。

さて、「一年の計は元旦にあり」といいます。一年の始まりのこの時期に夢を語ることが実現への第一歩ということだととらえています。私もこの場を借りて、ささやかではありますが夢を語りたいと思います。

「サーモン計画」についてです。これは何かというと、ふるさとの川を遡上するサケのように、若松小学校の卒業生が戻ってきて子供たちと関わってもらう、というものです。本校は大変ありがたいことに、多くの地域の方々が子供たちと関わってくださっています。それをさらに進めて、中高生、大学生、専門学校生あるいはそれ以上の年代の卒業生(でなくてももちろんいいのですが)に力を貸してもらえたら、と考えています。その人たちを「若小サーモン」と呼びましょう。で、何をしてもらおうか。それはその人の得意分野を活かしてもらえればいいのです。ダンスが好きな人はダンス教室を行ってくれるといいですし、サッカーが得意な人はサッカーを教えてくれればいい。算数が好きな人には九九の覚え方を教えてもらってもいいし、本が好きな人には読み聞かせをしてもらうのもいいですね。子供と関わるのが好きな人なら休み時間に遊んでくれるだけでもいいのです。今まで以上に地域の方々が学校に出入りするのが当たり前の光景になるといいな、と思っています。

そうやって多くの人達とつながることは子供たちにとって大きなプラスになるでしょうし、「いずれは自分もサーモンに。」と考え、戻ってくる子供たちも出てくるでしょう。そんないい循環が生まれてますます学校と地域が一体化すると素敵だな、と思うのです。

以上が私の夢です。

「夢」が「計画」になり、「計画」が「予定」になるといいな、と思います。

本年も、保護者・地域の方々と、子供を真ん中に置いて、共に学び、共に支え、共に紡ぎあう関係を大切にしていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

